

# CSRの取り組み

## CSRの取り組み

当社は、「社会と環境にやさしい幅広いソリューションを提供する生命保険会社」を目指しています。健康・医療・環境等をキーワードに、人々の生活や企業活動に幅広いソリューションをご提供するとともに、あらゆるステークホルダーとの積極的な対話を通じて、企業の社会的責任(CSR)を実現し、一企業市民として社会の発展に貢献していきます。当社は、CSRの実現のため、NKSJグループのCSR基本方針に基づき、全社をあげて環境問題や社会貢献活動など、CSRに関するさまざまな課題に取り組んでいます。

## NKSJグループのCSR

### CSR基本方針

- NKSJグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、経営基本方針を踏まえ、高い倫理観のもと、国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ※、地域社会への配慮などを自らの事業活動に組み込みながら、企業としての社会的責任を果たしていきます。
  - NKSJグループは、120年に及ぶ歴史の中で培ってきた、保険事業を核とする本業の強みを活かし、これからも常に一步先を見据えて、お客さまに「安心、安全」を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、新しい社会的価値の創造に挑み続けます。
- ※ダイバーシティ：性別、年齢、国籍、人種、宗教等にかかわらず多様な個性をもった人材を活かし、能力を十分に発揮していくことが組織の目的の達成を可能にするという考え方

### CSR中期課題

- 安心・安全で持続可能な未来に向けて、新しい社会的価値を提供することにより、お客さまに選ばれる企業グループを目指します。特に、健康、医療、環境等をキーワードに社会的課題の解決のため、幅広いソリューションを提供します。
- 気候変動や生物多様性などの環境問題への積極的な取り組みにより、先進的な環境経営を目指します。
- ステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、ステークホルダーの繁栄を支えます。

## CSRの活動事例

### エコキャップ運動

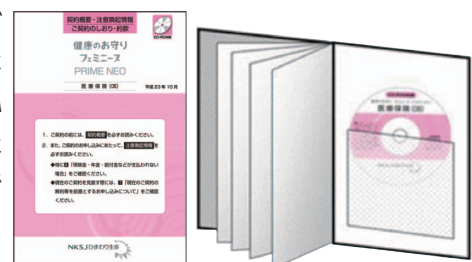
当社は「エコキャップ運動」に取り組んでいます。「エコキャップ運動」とはペットボトル等のキャップを分別回収し、再資源化することで、焼却処分に伴うCO<sub>2</sub>の発生を抑制し、キャップの再資源化で得た売却益で世界の子どもたちにワクチンを届ける運動です。

<2012年5月現在の状況>  
 回収個数:約203,640個(509.1kg)  
 ワクチン換算:258.9人分  
 CO<sub>2</sub>削減効果:1,630kg  
 ※800個(2kg)でポリオワクチン一人分が購入できます。  
 ※400個(1kg)を焼却すると3.15kgのCO<sub>2</sub>が発生します。



### 「ご契約のしおり・約款」CD-ROM版の提供

お客さまの利便性の向上、紙資源の保護および環境への配慮の観点から、ご契約時にお客さまへお渡しする「ご契約のしおり・約款」のCD-ROM版をすべての個人向け商品に用意しています。現在は、約50%のお客さまにCD-ROM版を選択いただいています。同種類の紙冊子版と比較し、A4サイズで1冊あたり平均146ページ、平均約55%の紙使用量の削減をし、環境配慮に取り組んでいます。



## QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上を支えるサービス

当社は、CSRの一環として、がんにかかられた方のQOL(療養生活の質)向上を図るため、独立行政法人国立がん研究センターと連携・協力していくことに合意し、2011年7月28日、協定書を締結しました。

保険商品を通じた経済的サポートだけでなく、がんにかかられた方やそのご家族に対して国立がん研究センターとともにがん医療情報の普及推進等を行うことで、「がん」に関する知識を深めていただき、がんにかかられた方のQOLの向上に貢献します。協定における主な活動としては、以下のとおりです。

### 【主な活動内容】

#### ①国立がん研究センターの著作物「患者必携 がんになったら手にとるガイド」の認知向上の支援

国立がん研究センターは、2011年3月医療従事者およびがん患者、そのご家族から多くの情報を集め、がん患者に必要な情報を網羅した本「患者必携 がんになったら手にとるガイド」を発行しました。

QOLは、情報を知っているか知らないかで、大きく左右されることがあります。そのため当社は、代理店を通じてその紹介リーフレットを配布し、がんに関する情報の普及に努めています。

#### ②「相談支援センター」の認知向上の支援

国立がん研究センターでは「がん対策推進基本計画」に基づき、がん患者が気軽に相談できる「相談支援センター」をがん診療連携拠点病院に設置しています。

無料で相談できる施設の設置については以前からがん患者やそのご家族より要望が寄せられていましたが、現在のところ認知度は低く、利用率が低いことが課題となっています。当社は、代理店を通じて「相談支援センター」の紹介冊子を配布し、施設の認知度および利用率向上に努めています。

#### ③「市民公開講座」等セミナーを通じたがんに関する医療情報の提供

2011年11月、国立病院機構 九州がんセンター主催 第22回「がん患者のQOL推進事業講習会」に講師として参加し、QOL向上をコンセプトとした「がん保険」について医療従事者に講演を行いました。



国立がんセンター著作物  
・患者必携 がんになったら手にとるガイド  
(ガイドリーフレット)



国立がんセンター著作物  
・相談支援センター紹介冊子



セミナー(主催:国立病院機構 九州がんセンター)  
・第22回「がん患者のQOL推進事業講習会」

## 被災地支援ボランティア

2011年10月から12月にかけてNKSJグループで開催した「NKSJボランティアデー」における当社の活動のひとつとして、当社本社で被災地支援ボランティアを実施しました。

ブックオフの「売って支援プログラム」を活用し、社員に古くなった本・CDなどの寄付を募り、その売却金を被災地支援活動に取り組むNPOに寄付しました。



## eCS(イーシーエス)運動

当社は、社員(employee)、お客さま(Customer)にとって満足度(Satisfaction)の高い「いい!(e)」会社になることを目指す全社運動を展開しています。社員全員がお客さまに信頼いただくため、社会に貢献するための使命や誇りを醸成することを目的としています。

職場ごとにさまざまなテーマを設定しており、「トングの日(個人のトングを使ってゴミ拾いをする活動)」や「使用済み切手の回収・寄贈」、「ベルマーク運動」、「被災地品の購入促進」など、多くの部署が社会貢献活動に取り組んでいます。



## 骨髄ドナーへのサポート

当社は2010年11月、終身医療保険をはじめとした医療保障商品を改定し、社会貢献活動の一環として、骨髄ドナーに対して手術給付金をお支払いしています。

白血病などに対する有効な治療方法として、骨髄移植があります。しかしながら、骨髄移植を受けるには、骨髄提供者(ドナー)と白血球の型が一致しなければならず、一致する確率は非血縁者では数百から数万分の1、兄弟姉妹でも4分の1程度と低いものとなっています。そのため、今後も積極的なドナー登録が望まれています。

一方、骨髄を提供するには、「精神的な負担」(家族の説得・手術への不安等)・「経済的な負担」(入院にともなう休業損失)・「身体的な負担」(骨髄幹細胞採取手術のリスク)等があり、こうした負担もあってドナー登録が進まないとも言われております。例えば「経済的な負担」に関しては、骨髄採取に伴うドナーの方の入院費用は受容者側(移植を受ける人)の保険で対応しますので、ドナー側に負担は生じません。しかしながら、骨髄採取には4日程度の入院が必要で、この入院のため仕事を休んだ場合の休業損失、ホームヘルパー代

等の間接費用はドナーの方の負担となります。

そこで、被保険者が骨髄幹細胞採取手術を受けた場合に、医療保険等において所定の手術給付金をお支払いすることで、ドナーの方の「経済的負担」を軽減し、当社商品を通じてドナー登録者の支援ができるようにしました。被保険者がドナーとして骨髄幹細胞の採取手術を受けられた場合に、入院給付金日額の20倍の手術給付金(※)をお支払いします。この手術給付金は、新規のお客さまだけでなく、すでにご契約いただいているお客さまにも保険料の変更なく適用されます。

当社は、ドナーの経済的な負担を軽減することで、さらなるドナー登録者数の増加に貢献するとともに、「社会に貢献したい」というお客さまの思いをサポートしていきたいと考えています。

※日本興亜生命でご加入いただいていた医療保険(08)(ホッとメディカル)の場合は、入院給付金日額の25倍の手術給付金をお支払いします。